

市町村との意見交換会について

日時：令和元年12月22日（日）

午後3時30分～午後5時30分

場所：リーガロイヤルNCB 2階 松の間

開会 午後3時30分

○事務局 市町村との広域連合の意見交換会を開催させていただきます。

私は本日の司会進行させていただきます本部事務局長の村上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、ご出席いただいております皆さんを紹介すべきところでございますが、時間の関係上お手元の配席表をもってかえさせていただきます。

また、本日は現在、関西広域連合で策定作業を進めております第4期広域計画と第2期の関西創生戦略の案についてご説明し、また、引き続きまして、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」について現在の状況ご説明させていただいた後に、時間の許す限り意見交換をさせていただければと考えております。

なお、本日の意見交換会は、公開とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは最初に、井戸広域連合長よりご挨拶を申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

○広域連合長（井戸敏三） 本日は年末の大変ご多忙の中、市町村長の皆様にはご出席いただきましてありがとうございます。この意見交換会、前回7月に開催をさせていただいて活発な意見交換をさせていただきました。今回は16回目になりますが、本日も共通の認識と課題を共有させていただきまして、相互理解を深めたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

この10月には台風19号の影響によりまして、記録的な豪雨により、各地で河川の氾濫等が発生して多くの方が被災されました。関西広域連合ではこの間、被災規模が特に大きかった福島県、栃木県、長野県に対しまして、カウンターパート方式によりまして家屋被害認定調査業務や、災害廃棄物関係業務などさまざまな被災地支援を行ってまいりました。被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに関西広域連合が、今後も被災地に寄り添った支援を行ってまいりますので、ご理解いただきたいと存じます。

広域医療につきましては、設立当初3機で運航しておりましたドクターヘリでございますけれども、平成30年の3月には鳥取県にも新たに配置され、7機体制による一体的な運航体制を実現することで、圏域内の救急医療体制を充実してまいりました。

分権社会の実現に向けた取り組みでは、京都文化庁が全面的な移転をされること方向づけられましたし、徳島県に消費者庁の新未来創造戦略本部が恒久施設として設置されることになりました。

また、和歌山県では総務省統計局の「統計データ利活用センター」が開設されております。この利活用センターはいろんな各種統計の個別情報の活用についても相談に乗っていただくということになっておりますので、そのような意味で可能性の高い活用が期待されていると言えようかと思っております。

このように関西広域連合圏内、全国的に見ても政府機関の地方移転が実現したのですが、残念なことに国の事務移譲の受け皿としての関西広域連合は、機能を果たすという点については、なかなか国の壁も厚く、検討が十分に進んでいない実情でございます。これからも第4期計画でも頑張るとは書いておりますが、どのように進めていくかが課題になっているという状況でございます。

このような意味で9年間の取り組み実績は、いわゆる広域事務、防災ですとか、医療ですとか、産業ですとか、環境保全ですとか、広域事務につきましては、私どもから見ても大きな成果を上げていると言えようかと思いますが、先ほども述べましたよ

うに、国の事務の受け皿としての広域連合の役割という意味では大きな進展が見られていないという実情にありますので、広域計画にもその旨、総括をさせていただきまして、さらなる第4次の広域計画での推進の課題に上げさせていただいているものがございます。

後ほど説明させていただきますけれども、関西の将来像として国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西、個性や強み歴史や文化を生かして地域全体が発展する関西、アジア・世界と繋がる、新たな価値創造拠点・関西を目指すということにさせていただいております。

また、東京一極集中を是正して地域課題の解決を図り、関西圏域に活力を生み出すための第2期関西創生戦略も策定して、地方創生のさらなる進化を図ってまいります。

引き続き、住民に身近な自治体であります市町村のご理解とご協力をお願い申し上げる次第でございます。

9月から11月にかけて開催されましたラグビーワールドカップ2019を皮切りに、来年は東京オリンピック・パラリンピックが開かれ、そしてその横で2021年には、ワールドマスターズゲームズ関西が引き続き3年間続いて行われます。また、日本で初開催となります世界パラ陸上競技選手権大会が神戸で2021年の秋に開催されることになっております。そのような意味で2021年のワールドマスターズゲームズ関西と世界パラ陸上競技選手権大会の成功に向け、ぜひ関西の市町村のご協力をお願い申し上げたいと思います。

そして2025年は、大阪・関西万博が開催されることになっておりますので、我々としましては、この2021年のワールドマスターズゲームズで勢いをつけて、万博の準備に万全を期していけるようにしていきたい、このように願っているものでございます。これからも関西広域連合、関西府県、そして関西市町村一体となりまして、地域の活性化を目指して努力を重ねていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様から積極的なご意見をいただきまして、相互理解、共通認識を深めたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

以上、冒頭に当たりましての、私からのお願いを兼ねましたご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局 それでは早速、意見交換会に入らせていただきます。

まず「第４期広域計画案」及び「創生戦略案」につきまして、私の方から計画の構成と簡単な概要をご説明した後に、それぞれの各委員、知事、副知事、市長等からそれぞれの担当分野における重点事項についてコメントをさせていただきたいと思えます。

○事務局 「第４期広域計画案」及び「第２期関西創生戦略案」について説明

○事務局 続きまして、それぞれの委員の方からご説明をいたします。

○各担当分野委員による重点項目についてコメント（資料説明）

- ・井戸広域連合長：広域計画の全体及び広域防災、スポーツ振興、資格試験・免許、企画調整事務、地方分権等
- ・近藤広域観光・文化・スポーツ局長：広域観光・文化振興
- ・平井委員：広域観光・文化振興（ジオパーク推進）
- ・山野副委員：広域産業振興
- ・仁坂副広域連合長：広域産業振興（農林水産）、広域職員研修
- ・後藤田副委員：広域医療
- ・三日月委員：広域環境保全

○事務局 どうもありがとうございました。

あともう少しだけお時間を頂戴いたしまして議題2になりますけども、続いて、「ワールドマスターゲームズ2021関西」について組織委員会の方からご説明し、その後合わせて意見交換の時間を持ちたいと思います。よろしくお願いします。

○WMG組織委員事務局 「ワールドマスターズゲームズ2021関西」について説明

○事務局 どうもありがとうございました。

それでは、以上ご説明いたしました事柄や、この機会でございますので、それ以外の事柄につきましてもいろいろと自由にご意見を交換できればと思います。どちらからでも結構でございます。挙手をいただければと思います。

○御所市長（東川 裕） 今、近畿市長会長を仰せつかっております。前任者が退任されましたので、急遽お鉢が回ってきたというような立場でございます。

お話を聞いておりまして我々、市町村長、毎年役職も変わりますので、この9年間のプロセスというのがわからないままお伺いしておったんですけれども、お伺いして若干気になったこと、連合長にもお伺いしたいなと思うんですけれども、首都機能のバックアップというお言葉がございます。首都機能の移転ということは考えておられないのか、つい先日国会の方で有志の議員さんによって首都機能移転の話がもう何十年も前に一度盛り上がったんですけど、そこから消えておったと、それを復活させようという形で有志の団体ができたと聞いております。したがって、それとの整合性は関西広域連合としてどうされていくのかというのが一つ気になります。

それと、森林環境税が導入されますけれども、山のマネジメントというのはこれ奈良県でも非常に話題になっているんですけれども、市町村でマネジメントはとてもできません。奈良県の場合は、その事務を県が委託を受けるような形で、今、提案をいただいているんですけれども、と言っても奈良県だけでもマネジメントできない、大阪、和歌山、三重、みんな山はつながっていますので、その辺を山というカテゴリ

ーでどうやってマネジメントするのかなという時に、やっぱり広域連合というような広域の部分というのが役に立つのではないかなと思っております。森林環境税が導入されるのを機に、山をどうやってマネジメントするのか。奈良県は和歌山、三重と一定の話し合いはしているようなんですけれども、それをどうなのかというのが一つです。

それと同じように、これ川ですね。川も行政域が関係ないものです。琵琶湖と淀川の連携をされているようなんですけれども、例えば本県でしたら大和川の話がいつも話題になります。奈良県はご存じのように亀の瀬というところで一つになって大阪に流れていきますので、奈良県だけではなくて大阪とも連携する必要が今度出てくるということです。ぜひ、その広域連合の中で自然の地勢に基づくものについて今、特に山が弱っておりますし、雨が異常な降り方をするような時代になっておりますので、是非そういうご議論もいただけたらと思いますので、これはご提案としてお話をさせていただきました。

以上です。

○事務局　ありがとうございます。意見交換ですので、広域連合側のコメントを連合長からお願いできればと思います。

○広域連合長（井戸敏三）　東川市長から3つの提案いただきました。ありがとうございます。

首都機能のバックアップの議論はずっと進めてきたわけでありましてけれども、首都機能の移転については、かなり候補地の選定の議論まで国会で行われながら、3カ所を、候補地を決められて、栃木と、それから伊勢と三重と愛知ですね。そこまでは行ったんですが、それ以降は完全に飛んでしまっております。ただ、私どもは国の行政機関の移転について、現在も働きかけをいたしております。ある意味で国の行政機関も首都機能の一部を形成している重要な要素だと思っております、そのような意味で今までもつながりを持たせていただいていたのですが、国会において、また改めて

首都機能の移転について、これは全面移転なのか部分移転なのかははっきりいたしませんけれども、そういう動きをウオッチしながら、我々自身が、その国の出先機関の移転という実績も上げているということも含めて、しっかり対応していけるようにしていきたいと、このように思っております。

2番目の山の管理の問題ですけれども、兵庫県の例で言いますと森林管理支援センターをつくりまして、その支援センターが市町から受託をしたり、あるいは技術指導をしたりすることにしておりますけれども、奈良県さんの場合は徹底して全部山の管理の、市町の機能を県の外郭団体みたいなものをつくられて一括、受託をしようかというような検討が進められていると承知しています。この辺はどこまで徹底するのが良いのかというのは、ちょっと地域によって事情があるかと思いますので、我々としては市町の事務を受託して対応する場合と、それから市町が単独でやられる場合には、それを支援していく場合と2つのケースに分けて対応しようとしているものでございます。おっしゃっておれますように特に防災機能みたいな点をまた考えますと、流域ごとの対応が不可欠だということになっていきます。現に、琵琶湖総合開発で、琵琶湖周辺の山の管理が非常に重要だということで、下流部地域の県がわざわざ出資をしまして、山の管理を滋賀県の公社が代行してやっていただいていたというようなこともございました。今も兵庫県は出資を続けていまして、今回は配当までいただいたという状況も出てきております。そのような意味で従来から仕組みはあるわけですが、さらに今後流域管理という観点で、どんなことができるのかということを経琵琶湖淀川水系の検討会を3年に渡って続けてきましたので、その答申が今年出揃いますから、それを具体的にどのように進めていくのか、そのフォローアップを来年度はやらせていただきたいと考えております。

ようやく、去年の7月豪雨以降、例えばダム管理運営などにつきましても、事前放流というような考え方が、国交省自身も数値を出されて、管理の見直しを作業として始められていますし、現にこの台風19号の時などは県内の一庫ダムというダムがあ

るんですが、そこについては事前放流をやりますみたいな通知まであったんですけれども、そこまで至らなかったんですが、そういうような意味で流域管理のあり方の一環として、私どもは積極的に関与させただけだと思っていますところでございます。

○事務局 ありがとうございます。ただいまの意見、発言等に関連しまして何かほかに広域連合、知事さん方からご発言がございましたらお願いできればと思います。

○亀岡市長（桂川孝裕） 特に広域環境保全の関係と、そしてワールドマスターズゲームズ及び関西万博について少しお聞きしたいと思います。

まず、広域環境保全の中の、特にごみに関わることなんですが、私どもは昨年の12月にプラスチックごみゼロ宣言をして、今年の8月から全ての商店、スーパーも含めてレジ袋の有料化に取り組んでまいりました。そして来年の3月議会でレジ袋の提供を禁止するという条例をつくる予定で今準備をしておりますが、おかげでレジ袋を有料にしたことによって、亀岡の中でも約3カ月で50万枚以上のレジ袋が使われなくて済んだということですとか、ここにもマイバッグ、マイボトルという話がありましたが、エコバッグ、マイバッグの持参率が83%ぐらいに上がったという状況になってまいりました。そういう面では関西広域連合も、今年の5月に宣言をしていただいたということなんですが、具体的なアクションですね。特にレジ袋を含めたプラスチックごみの発生源抑制をどうするかということが大変大事だと思ってまして、その辺をどのようにお考えなのかということと、それと今の現状を見ると、この関西圏内の各川に多くのペットボトルやプラスチックごみがある状況の中で、そういうものをなくしていくような取り組みを進めていかなければならないなと思っています。今、国においては、海で漂流し、海岸へ打ち上げられたごみについてはいろんな補助制度があって、取り組みがあるわけでありましたが、内陸部からのそういうごみの発生に対する予算は、国においてまだついていない状況の中で、やはりこれは全体的に、この関西広域連合で、各県で取り組んでいただけるような方向性を打ち出していただけないかというようなことをと思っています。環境省も、環境省の地下のコンビニのレジ袋の配付

を禁止したとか、福岡県庁でもそれをやめて県庁の中の売店といいますか、中でも多くのレジ袋を削減したと聞きます。うちはもちろん昨年から市役所内のレストランや売店では、レジ袋を廃止するとともに、ストローはもう使わないということにして、今後はイベントもリユース食器を使ってやるような形で、なるべくそのようなプラスチックごみを出さない、なくしていくような取り組みを進めてきておりますので、ぜひとも関西広域連合でもそのような積極的なアクションを起こしていただきたいのが一つです。

二つ目が、これから来年オリンピック、そして再来年ワールドマスターズゲームズ、また、そして大阪・関西万博がありますが、それに対する「おもてなし」をどのように広域でやろうと思っているのかということのを少し聞かせていただきたい。やはり今、観光客、インバウンドを含めて3,111万人ですか。来られているということなんですが、それを全域に、やはり多くのところに、その人を回遊していただく仕組みはもちろんいるんですが、そこでは人と人とのつながりの中で「おもてなし」というのが大事だと思っています。東京では今オリンピックに向けて街を美しくしていくと、ボランティアで花を植えるような、そんな取り組みが、ウエルカムガーデンづくりとか、そんなのが今日のNHKの「趣味の園芸」でもやっていましたが、そういうようなもう少しベターな、やはり「おもてなし」とか、街をそれで美しくしていくとか、関西の魅力を高めていくということが必要だと思います。そういうものもやはり政策の中にしっかり入れていただいて、そこにはもちろんボランティアの方々の参加が必要でしょうし、ただ単に運営だけに参加するというよりも、そういう方々が来る関西というエリア各所が美しくなっていく、これはごみもないということを含めて、取り組みを進めてほしいなと思っておりますが、その点についてお聞かせください。

○委員（三日月大造） 先進的なお取り組みをされている市長からご提案なりご要望をいただきました。3点申し上げたいと思います。

まず、プラスチックごみの問題については、発生源抑制対策が一番重要だということ

とは認識を共有いたします。関西広域連合としては、まず、それぞれの自治体の皆様方のこういった環境保全のための自治を尊重しながら、例えば亀岡市をはじめとする優良事例の紹介や共有、これをまずしっかりと行っていきたい。併せて関連する広報啓発を展開していく。これがまず1点目です。

2点目は、じゃあ禁止すれば使わない、ここ変えればということを強制して、ことなるかという、なかなかない面もあると思います。今年、関西広域連合では、日本フランチャイズチェーン協会の皆様方などコンビニ等の業界団体の方にも出ていただいて、現に今、海や湖、川などに大量に分解されずに残っているプラスチックごみを減らしていくためにどうすればいいのかということを、共通の課題として議論するプラットフォームを立ち上げました。そういう場で、ぜひ多く使われる業界、実際につくってらっしゃる業界の皆様方とも連携して、関西一円で発生源抑制をしていくという機運をしっかりとつくっていききたいというのが2点目です。

3点目は、最後におっしゃった海については、さまざまな取り組みや支援も行われていますが、河川や、例えば琵琶湖のような湖沼への取り組みがなかなか十分ではないのではないか、これは私もおっしゃるとおりだと思いますので、国に対してもさまざまな、例えば研究の知見の共有でありますとか、支援制度の創設でありますとか、こういったことをぜひ精力的に働きかけていきたいと考えております。

琵琶湖でも5月に湖底の調査をいたしますと、大量に出てきたプラスチックごみがミルフィーユのように重なっており、プラスチックごみの多くの部分は、確かにレジ袋もありますが、農業用の資材袋も大量にあることがわかりました。誰が悪いとか、誰の負担だけということではなくて、社会全体で取り組んでいけるような、そういった仕組みや機運づくりのために、より一層広域連合としても頑張っていきたいと思っております。

○事務局 「おもてなし」の部分についてはどなたかご発言、全体に渡りますので、できれば連合長と、その後観光の分野への取り組みをお話いただければと思います。

○広域連合長（井戸敏三）　ご指摘のとおりだと思います。現に、もう13年前になるんですが、兵庫で国体を行いましたときに、「おもてなし」をどういう形でやろうかということで、最寄り駅から競技場までの沿道を全部花で埋めるということを実行いたしました。そのような意味では大変花いっぱいの国体だったということで皆さんから喜んでいただけたと思っております。それも一例になるんですね。一例なんです。おっしゃいますように街並みを綺麗にするということも一例なんです、街路樹の管理をどうするかという問題もありまして、最近、私はいかがかと思うんですけど、葉っぱがいっぱい落ちるから切ってくれみたいな要請まであるんですね。それから全く街路樹も要らないようなところに街路樹を植えている。新しく道路をつくって、回り全部山なのに、その山中を通っている道路にですね。街路樹を植えている。こんなバカなことをやっているんです。そんなところの街路樹なんか要らない、ですけど、街中の街路樹はやっぱり整備をきちんとしてですね。管理もしっかりしていくということが重要なんじゃないのか。市民から言われたら丸坊主にしてしまっただけですね。美しさが全然感じられないような管理をしたりすることもありますので、これはお金の問題もあるんですけど、しっかり管理をしていかなければいけないのではないかなということもあるのではないかと思います。

今ですね。オリンピックとか、ワールドマスタースゲームズで歓迎の意味を込めて、我々広域観光ルートをしっかりセットをして、広域観光ルートの主要なポイントを12カ国語ぐらいで、解説ができるような、そういうサイトをつくっていこうということで、関西観光本部と一緒に進めております。

もう一つは、これは防災に関連するんですが、防災アプリを活用していざというときには、このアプリに登録しておいていただけると情報がサッといきますよというような安心感を持っていただける対応も合わせてしていきたいと考えております。

それと、先ほどもふれましたように、関西一円に、J Rと、それから関連私鉄さんの協力を得て関西ワンパスとJ Rパスが、関西一円で使えるようにさせていただこう

と考えておりますので、これも利便性の向上という観点で「おもてなし」の一つのスタイルではないか、まだ、各地で開催する実行委員会ベースで、それぞれの地域の特色を出していただくような歓迎をしていただけたらいいかと思っています。

総括的に私の方から答えさせていただきました。補足することがあるようでしたらお願いをいたします。

○広域観光・文化・スポーツ振興局（近藤健司）　ありがとうございます。申し上げるまでもございませんですけども、観光の場合には、それぞれの地域が、例えば資源の発掘であるとか、あるいはその磨き上げ、あるいは地域ボランティアの育成といった取り組みをしていただいておりますけれども、広域連合の方では、まさに連合長が申し上げましたように、広域連合として広域観光に取り組むといった視点で、この間、取り組んでまいりました。

例えば、ハード面で申し上げますと、先ほど少しご紹介がありましたような「KANSAI ONE PASS」といった交通環境、あるいは「KANSAI Wi-Fi」といったような通信環境の整備を関西全体で、基盤整備という観点で行っております。亀岡市長様からご提案がありました「おもてなし」の一環ではあるかと思えますし、こうしたハード面以外のソフト面につきましても、関西広域連合としてできることがあれば、しっかりと検討してまいりたいと、このように考えてございます。

以上でございます。

○委員（三日月大造）　一点補足です。プラスチックのごみもそうですし、素材も含めた対策検討会の設置を現在、関西広域連合として検討しております。環境保全を担当する我々と、産業の面でどんなことができるのかということを現在準備しております。例えばプラごみの散乱状況の把握でありますとか、代替プラスチックの普及可能性の検討ですとか、これを是非関西ならではの取り組みとして広域で行っていきたいと思っていますので、亀岡市さんのいろんな取り組みなども一緒に検討させていただければと思います。

○広域連合長（井戸敏三） もう一つ追加させていただきますと、先ほどのこのワールドマスタースゲームズの地図がありますけども、その中にセンタービレッジとか、マスタースビレッジ大阪とか、マスタースビレッジ和歌山とか、マスタースビレッジ奈良とか、マスタースビレッジ京都とか、各地にマスタースビレッジというビレッジを置くことにしております。これはお越しいただいた方々のたまり場であり、相談所であり、交流の場という意味でつくろうということにいたしておりますので、このミニ版を各実施市長でつくっていただいたらありがたいなと思っているのでございます。

○亀岡市長（桂川孝裕） 先ほど連合長からもお話がありました。ワンパスについて、できれば私鉄もしっかり使えるようにしていただきたいなということを思っています。

○WMG組織委員事務局 ワールドマスタースゲームズで用意しているワンパスの方には私鉄は全部入っております。片方はJ Rが発行していただくものなので、これはJ Rだけなのですけれども、ワンパスの方では私鉄も対応しております。これは先ほど紹介がありました。既に関西全体のワンパスというのは、既に仕組みができています。

○亀岡市長（桂川孝裕） わかりました。ありがとうございます。

○事務局 ほかにご発言ございませんでしょうか。

○五條市長（太田好紀） 私は、今回初めてということで過去の経緯は全くわかりませんが、第4期広域計画についての中で、農業に対して質問をさせていただきたいと思います。仁坂知事からもお話があったようですが、この農業振興の（ア）から（カ）の6つの項目があり海外の事業拡大とか、販路拡大、または競争力の強化と、いろいろございます。実は、私は奈良県の南西部に位置する五條市でございますが、大変休耕農地が増えておりまして、どんどん農業をする方が少なくなっております。後継者がいないということです。今、海外へいろいろ輸出をしているということですが、世界を見たときに日本の人口は、これから40年後には1億人を切ると言われております。世界の人口というのは今、73億ぐらいですか。これが50年後には100億人を

突破すると言われております。とすれば、これからの農業というのは大変、私は深刻であろうかなと、これから本当に日本国内の、自分のところの自給力がなければやっていけないのではないかなと思うわけであります。今、海外へ輸出をしています、これから輸入ということはほとんどできない状況なのかなと思います。これは10年、20年先ではなく50年先になるか、それはわかりませんが、間違いなく日本の農業というのは衰退しているのが現状であろうかなと思います。後継者がいないから当然畑を放置することになります。そしてその畑を見ますと1年2年くらい放置されますと元どおりに戻せない、3年を経れば山になってしまうという、そんな状況の中で、特に通用の道路が小さい道路である場合、車が入るところは近隣の人が土地を借りてくれるということはあるかもしれませんが、そうでないところはほとんど山になってしまいます。これを元どおりにするということは到底できない状況になっていくとなれば、これから先、次の世代のため、私たちの今やるべきことをきちんとやっておかなければ、本当に深刻なことになります。世界の人口はどんどん増えていますから、農業自体が消滅すれば、日本の国内の需要に対する供給というのは全くできない状況になるのではないかなと、そういう形の中で、私たちは今やるべきことをやはりどうするべきかということで、販売拡大という、後継者育成も当然大事であろうかなと思います。土地を一旦、1、2年放置すると、どうしても後に戻すことができないという、こんな状況で、特に大手企業がどんどん今、農業に参入しております。大変ありがたいことですが、これから後継者がいなければ、当然大手企業もなかなかそこには参入できない状況になっていくのではないかと考えております。そうなったときに、今私たちのやるべきことというのは、当然、この今の耕作放棄地を、いかに毎年どんな形でも運用できるような体制を、関西広域連合で連携をしながらつくっていくか、これは林業においても、国土の保全ということも当然であろうかなと思います。農業というのはこれから先日本にとっては大変危機的な状況であるのではないかなと思います。是非とも、こういう面を皆様方と連携をしながら、この関西広域連合で位置づけて、これに

取り組んでいくということは大変大事であろうと思います。これは要望であります、是非ともその点お願いをしたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○副広域連合長（仁坂吉伸） 五條市長から要望でありますと言われたんですけれども、ちょっと所見を述べます。

まず、おっしゃっていることは90%ぐらい全く同感で、多分、ここにいる皆も同じことを考えていると思います。ただ、10%くらい違うのは、私は、農業は大成長産業だと思っております。これから10年とか、20年ぐらい遠い先はわかりませんが、それを考えると間違いなく伸びるはずの産業が二つある。一つは農業だと、もう一つは生命化学の領域だと、あとはなかなか大変と、こういうことだと思うんです。何故、それほど農業が良いかというと、さっき言われた日本の農業はなかなか量的に伸びないから、輸入が入ってくるだろうということなんです、今、各国が凄く発展しているから、需要としては美味しいものを食べたいというのと、それから安全なものを食べたいというのと、それから夢を食べたいと、この三つなんです。これを叶えられるのは日本の農業しかないと思うんですね。現に凄く人気があります。例えば、輸出をしたら結構当たるようなところがあるんですが、検疫という敵があつてですね。なかなかできないことがあるんですけど、それをみんな各県とも、あるいは各農協とか、そういうところを狙ってね。いけるところはどんどん行って、結構、儲かっているところはあると思います。先ほど成長産業と言いましたけれど、実はセクター別と言うと関西で一番伸びているのは農業の売上なんです。そういう意味では、まあそう捨てたもんじゃない、だからその捨てたもんじゃないのを頑張ってもっと発展させるにはどうしたら良いかと、こういう発想をやるべきだと思うんです。そのときにやっぱり儲からないと話にならないので、儲かるにはどうしたら良いかということで、それぞれのところで一生懸命やっておられるけど、一緒にやったらどうですかというのが、広域連合でやっている（ア）から（カ）のところなんですね。必ずしも広域連

合でなくても自分たちでやりますから、一緒にやりたくないというところが多いんですけど、だんだんと人気も出てきまして、共通農業政策で、今年予算は少ないんですけど、来年度予算案をみんながOKしてくれたんで、2.5倍ぐらいになるというぐらいの感じでちょっとアクティビティ上げて行こうと思っています。

その話と、それから休耕地後継者がいないという話は一部重なりますが、一部は重なりません。休耕地については一番大事な話で、皆さん年寄りになってきますから、当県でもそうですけれども、きちんと儲かっているのに誰もやる人がいなくなって困っちゃうというのが、結構あちこちで出てて、折角儲かるのに風前の灯火というところがいっぱいあるんですね。それを何とか貸し借りで対応しよう、あるいは譲渡・譲受で対応しようというのが、農地中間管理機構とかね。ああいう国の政策も入れた。各県一生懸命やっていると思うんですが、なかなか十分できていない。見ていたら、実は農業法人をつくっているところは凄く人を雇い易いんですね。何故かと言うとサラリーマンで都会の人たち、あるいは若者で農業をやって生きて行きたいという人は、こういう世の中ですから、ある一定程度はいるんです。ところが、あなた就農しますかという、採算全部自分に係る訳ですからなかなか大変なんですよ。ですから、それも一生懸命やっていますが、農業法人に聞いたら年間大卒で4人ぐらい雇いますよ、なんて言うところが、奈良県も結構あると思います。和歌山県も実はあるんですね。先ほど言われた、その大手企業の参入というのを、市長さんはどちらかというとプラスに捉えられたんですけど、これを日本の農業政策は全くマイナスに捉えてこれまできた。だから、とにかく法人化しにくい形になったんですけど、今、貸し借りを入れれば、農地所有まで入れるとちょっとまだ大変なんですけど、貸し借りを入れればほぼ法人経営に問題なくなっているんじゃないかと思うんです。だから、そういう意味で農協も含めて、その法人経営をできるだけ取り入れて、まずはサラリーマンとして農業に入ってもらった人が、そのうち暖簾分けで自己営農できるというような流れを早くつくらないと、やっぱり他の産業よりも先にいかれてしまうなという感

じはありますね。

それともう一つは、生産性を上げないといけないので、これはスマート農業ってありますが、多分各県とも、その生産性をいかに上げて一人の人がきちんとマネジメントできる農地を多くしていくということを多分考えておられるんじゃないかと。こんな流れの中で、皆でやろうよというところを広域連合はやりたいと思っております。

○上勝町長（花本 靖） 私からは特に一点、プラスチックごみというのが非常に問題になってきていますし、現実には、2050年には海の中の魚の重量とプラスチックごみの重量が同程度になると言われておりますので、大問題かなと思っております。上勝町は実はゼロウェイスト宣言をさせていただいて、もう16年になりますけども、そういった中で、先ほど優良事例の紹介という点、これはいろんなところで取り組んでいる事例があるので、関西広域連合としても紹介をしていただいて、共感ができたら取り組んでいただくというのが非常に良いのかなと思います。ただ、上勝町は取り組みを16年やって、リサイクル率8割になりましたけども、後残り2割ができません。それはもう消費者側の努力では無理です。ですから生産者側を巻き込んでいかなないとなかなかこれは難しいかなということで、先ほど業界の方に入らせていただいて議論する、プラットフォームをつくるということだったので、これ非常に大事だと思っております。上勝町でも、実は今45分別を町でさせていただいていますけども、実際は60ぐらい、現場では、企業さんが理解をいただいて、企業さんが協力していただける。企業さんが生産したものを送っていただいたら引き取りますよというような企業がどんどん出てますので、そういった企業を巻き込んでいただいて、生産者側の意識を変えていくような取り組みも今後はしないと、なかなか消費者側も限界がきています。消費者も当然レジ袋をやめるというのは大事ですけども、もう一つ生産者側も、もう一歩前進していただかないと解決していかないかなと思いますので、是非お願いできたらと思います。

○事務局 ありがとうございます。三日月委員、何かコメントございますでしょうか。

○委員（三日月大造）　ありがとうございます。全く認識を共有いたします。消費者の取り組みを啓蒙、啓発、理解を求めると同時に、生産者側の取り組みが大事だということがありましたので、そういったプラットフォームをつくって共通理解をしようとしています。また、産業界と連携して単に環境保全の分野だけではなくて産業面でもっと効率的なよりよい素材があるのではないかという、こういう開発はむしろ関西は得意な企業もたくさんありますので、そういったものを促していけるような、そういう取り組みにしたいと思います。ぜひ上勝町のいろんな取り組みにも学びたいと思います。ありがとうございます。

○事務局　ありがとうございます。ほかにご発言等ございますでしょうか。

○稲美町長（古谷　博）　先ほどから本当に良い勉強をさせていただきました。兵庫の場合は12の町があります。それぞれがいろんな課題を抱えています。有害鳥獣が顕著なところ、あるいは放棄田の多いところ、また放棄田の全くないところもございます。それぞれ特色があります。そんな中で仲よくやっておるのですが、農業は成長産業であると言うのはありがとうございます。

そして医療、稲美町に中国から随分と病気の治療に行きたいということで、どんどん来るんです今、向こうではめちゃくちゃ高いと、今そういう状態です。観光が終わって、今後は医療、昔日本人が台湾に歯の治療に行った。その逆が今出てきておりますので、恐らくは外国人が治療に稲美町、あるいはその他のところに来る。そういう時代にきているなと思っています。おっしゃったとおり生命科学の分野で日本は他に誇れる。農業は成長産業である。このように思っております。

商工会が、農業者の産品をシンガポールに売りに行こうと言うことで、今動き出しますので、町長も一緒に行ってくれと言われているんです。外国にイチジク、それからイチゴ、こういうものを売ろうとしているようでございます。

○事務局　よろしいですか。それではほかにご発言ありますでしょうか。

○吹田市長（後藤圭二）　いつもお世話になっております。広域連携の大切さにおいて

環境と防災、両方からちょっと感想めいたことになるんですけども、この計画の中でSDGsのマークが一番多いの環境ですと、先ほどもおっしゃいました。視野も、それから取り組みも、極端に言うと地球レベルのことを、自治体がこつこつやっています。先ほど亀岡市さんからもありましたように、それぞれがいろいろ工夫しながら、これスーパーマーケットとやりとりをするわけですね。我々の経験ですけど、今、淀川から北の大阪府域では3年前から全部有料です。吹田で進めようと思ったんですけどずっと進みませんでした。というのは隣に行ったら無料なのというのが、まず一つです。豊中市行ったら無料やと、吹田だけではできません。もう一つは、Aスーパーマーケットは有料でBスーパーマーケットは無料やと、客が流れると、こういうのをずっとやってきまして、確か9自治体と10スーパーマーケットで、3年前に連携協定を結びました。それでようやく一気に有料化に進んだんですけども、これ広域の仕事だと思うんです。兵庫県行ったら無料なのに大阪府では金取られるとかね。いや、奈良に行ったら、いや、京都に行ったらまた違う、ルールが違う、こういう地球規模の話は少なくとも関西で、それこそ日本をリードするようなルールをつくってと、スーパーマーケットは待っていますから、やりたいんですけど、うちだけできませんという状態でした。それは行政がリードしてあげたら、これはすぐ実現することです。

同じく生物多様性、それから地球温暖化という言葉があります。これまさに最低ユニットで関西と違うかなという気がします。それぞれの自治体が競うように計画はつくっているんですけども、例えば再生可能エネルギーをどう使うかというのは、ここにおられる自治体の皆さんほぼ共通の電力会社とのおつき合いがあると思うんですけども、それはうちも一緒です。そこも今は再生可能エネルギー比率を上げようと一生懸命頑張っております。それを応援するという意味でも、我々同じ考え方で取り組みれば、私は美しいなという気がします。

もう一つは防災、災害なんですけれども、平時の災害の協定であるとか、人の行き来とかいう話でいきますと、関西全域でということはあるんですけども、いざ南

海トラフが動いたときに、こと大阪府で言いますと、3つに分かれます。淀川と大和川の2つの大河川があります。これを超えることは想定してません。橋梁が落ちることを想定していますし、大渋滞で南北の移動ができないとなると、今、北大阪はそうなんですけれども、兵庫県さんと京都府さん、阪神間での連携というのが实际的です。例えば、東京都でもそうですね。利根川と多摩川で街が分かれてますから、その中同士での連携でないと自治体が、広域自治体がそこを超えていようが、いざというときにはそれは機能しないというのが我々の防災意識です。そういう意味で関西、この広域連合の中で山、大河川、それから海、文化、歴史、うちは摂津の国やとか、そういう話になるわけですよ。摂津の国が兵庫県さんに行くわけですよ。伊丹市さんもそうかな、尼崎市さん、それから西宮市さんも全然境目がないわけですね。河川も何もない、レジリアンスという考えでいきますと、広域自治体の壁というのは平時と違って有事の場合は取り払うべきではないかなという考え方で、今進めつつあります。そういう意味でも広域防災連携という考え方を、この計画を進める中で頭の中に入れておきたいなと思っています。

感想めいたことになりました。よろしくお願いします。

○委員（三日月大造） 大変重要なコメントをいただいたと思っています。冒頭のレジ袋の取り組みなどは非常に難しい、その合意形成の渦中であって、隣がやっていない、あの店はやっていない、なのに有料化かということに随分強い抵抗がある。ならば広域でこそ取り組むべきではないかという、そういうご指摘だと思います。今回、対策チームなどもつくりながら広域連合でも、さらに取り組みをどう強化すれば良いのか、また関西ならではの取り組みをどうつくれば良いのかというのを考えていく中で、今、ご指摘いただいたようなことも含めて検討していきたいと思っています。ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。

○広域連合長（井戸敏三） 関西広域連合をつくった一番のきっかけは、今、後藤市長がおっしゃったような、個別の県や府だけでは防災ができない。特に南海トラフ

が動いたような大規模災害の時には、関西全体で取り組まなきゃいけないのにもかかわらずばらばらで対応できるだろうかという危機意識、問題意識だったんです。それは発端ですので、今、ご指摘いただいたような点を十分に踏まえながら対応していきたいというのが基本です。ぜひ一度、広域連合でつくっております関西全体の防災計画である受援と支援の基本計画がありますので、それを一度ご覧いただきますと、国の出先、それから関西広域連合、府県市町、国の関係機関という、主体をずらっと並べまして、課題を縦にざっと並べたマトリックスにしています。本来、これをタイムラインで整理していかなきゃいけないんですが、これはタイムラインの整理の方は各防災主体、つまり個別のそれぞれにお任せするという形で、関西広域連合としては役割分担を明確にすることによって連携がしやすいようにするという、そういう意味で支援と受援の基本計画にしているということでもありますので、今のご指摘の点も十分に踏まえながら、もう一つブロックがいるんじゃないかというご指摘だと思いますので、そのブロックの計画というものまでブレイクダウンし、関西広域連合でした方が良いのではないかというご指摘だと私も受けましたので、さらに検討を加えさせていただければと思っています。

○副広域連合長（仁坂吉伸） 所管でもないんですけど、後藤市長さんが良いこと言うなと思って聞いておりまして。良いことがいっぱいあったんですけど、一つはレジ袋の話。実は和歌山県は、今から13年前に突撃して敗退をいたしました。その理由は言う事を聞かないところがあったからということなんですね。これやっぱり広域連合でもできないかもしれませんね。ルールとして強制力を持ったものをつくらないと、やっぱりできないかもしれません。そんなふうに思いました。

それから、この関係で言うと実は、私は個人的には別の意見を持っておりまして、こっちはやるべきだと思いますけれども、それだけでみんな走っているなとリサイクルとか、レジ袋をやめましょうとか、そういうことばかり言っているなと思っております。実は、前にそれをやめましょうといった時は、どちらかというと省エネとか、

環境意識とか、そういうことでやったんですけど、今、世の中で言われている話は、海洋でゴミが小さくなって、環境汚染が起こっているぞと、腐らないから駄目だというような話ですよ。あれのものは何かというと、使うこともそうかもしれませんが、それは間接的で、一番悪いのは捨てることです。その捨てる方を取り締まるべきではないかなと私は思っていて、和歌山県も実は、県として参入をしようと思ってるんですけど、もちろんそちらの方のことにけちをつけるつもりもなく、それも進めますが、捨てる方を徹底的に取り締まらないといかん。もう一つはあんまり厳しくやり過ぎると捨てる者が出てくるというインセンティブになってしまう。恥ずかしながら和歌山県の山の中を見ると、粗大ゴミをばいっと捨てているじゃないですか。結構あります。県を超えて捨てに来る者もいるような感じであります。そういうのが厳しくやればやるほど面倒くさいから捨ててしまえという悪い人が出てきて、それがずっと流れてくると最後は魚の口に入ってしまうということになるので、割合簡単に捨てないで全部処分してしまうということも必要なんじゃないかなと思ってるんです。そうすると結局燃やすということになるんですね。粗大ゴミは別にして、燃やすということになる。燃やすということを考えたら二つ敵があって、一つは環境省。燃やしたら非社会的な人間だと言われる。これはどうかと思ってると思います。というのは、例えば和歌山市は元は分別をしてました。プラゴミとそれ以外は分別しておりました。大した分別じゃないかもしれませんが。だけど、そのプラゴミを分別した後、どうしてそれを処分するかということへの方法論がなく、結局、最後は炉に、最後は燃やしていたわけですね。そうすると初めから同じじゃないかということになって、今は分別をしなくなったんです。市民は楽になってあまり余所には捨てないんですけど、その分だけ和歌山県の、あるいは和歌山市の、要するに環境政策の評価が著しく下がってしまったわけですね。同じことやっているんだけどなと思っていて、実は一番問題なのは先ほど燃やしたら良いじゃないかと言いましたけれど、燃やせる炉を持っている市町村があまりないんです。それを徹底的に強化して、とにかく

引き受けてやるから投げ捨てるかわりにも持って来いと言って、受け皿をつくっておくというのも、人の心は弱いことを考えれば大事で、それを県は、国の制度なども使いながら市町村に対して働きかけて、強化をしていこうかなと、その受け皿も作っておかないと駄目だと思うんですね。

それと井戸連合長がおっしゃったように防災に関して言えば、明らかにそのブロックというところが必要になってくるんだなと思いました。和歌山県は広域連合で助けてもらうところが沢山あるし、助けに行くことともあるんですが、割りと地形的にいうと県が独立しているものですから、あまりそういうことを考えないで今までしました。唯一あるのが、実は新宮のところと三重県とが繋がってしまっていて、広域防災拠点は三重県にお願いをしているんです。場所的な関係で、そういうところはあるんですけど、それはごく部分的なところだったなと、おっしゃるように県境よりも大事なものは地形の一体性だなと、そこで県レベル、あるいは県の半分ぐらいかもしれませんが、その防災計画、あるいはヘッドクォーターがいるなと今、本当に思いました。広域連合長がきちんとやってくれると思います。

○事務局 はい、お願いいたします。

○亀岡市長（桂川孝裕） ちょっとすみません。今のごみの問題の、発生源抑制をどうするかということが大変大事だという話は先ほどもありましたけれど、特に今、一番多くの課題はペットボトルが、やはり今までは中国に輸出していたけれども、それも断られるようになってきたということで、それが今国内でいろんなところに積み出されている状況があります。やはりペットボトルが川にしろ、海にしろ、どこもすごく汚染と言いますか、捨てられている状況があって、これはデポジット制度を含めた制度を、本当は国でやっていただかなきゃいけないと思うんですよ。関西だけでもやはりちょっと狭いのかなと思っていて、この前、小泉大臣に会ってそのことはお願いしたんですけども、国も来年7月から、一応レジ袋の有料化ということをすると言っておりました。7月よりも早くやりたいとは言っておられましたが、それでもレジ袋

の紙だとか、生分解性は無料で良いですということを国が言っておられて、それは基本的に駄目だろうということを僕は申し上げてですね。やはり生分解性にしろ、紙にしろ、それは基本적으로ごみになるものですから、それが自然の中で溶けてなくなるとか、環境負荷が少ないという面は評価するのですが、それも有料でやっぱりやっていただくべきじゃないかなということをお願いしました。そういう面では、やはり発生源を抑制するためにはポイ捨てをなくしていく、そのポイ捨ての根源は何かというと、実は、この10年以上、ごみの調査をしてきてですね。川からどのような形で海に流れて行くのかという、まさにそれは車で食べられたコンビニのごみだとか、ファストフードのものが窓から捨てられて、それをカラスがつついて、そして、それが離散をして側溝から小川へ流れて、川に流れていくという流れが大体なんですね。そしてペットボトルも本当に捨てやすい環境にある関係もあって、本当に河川の中では凄く危惧されるものがあります。モデル的に関西広域からやっていただくのも一つですし、是非ともデポジット制度を導入して、やはりそれを持っていくことによってお金をもらっていただく、初めはその分は出して買ってもらおうということですけども、そういうことをお願いしたいのと、それとやはり企業側にも、生産者責任というものを含めてこれは取り組んでほしいなということをお願いしておきたいと思います。

以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。では宮脇町長、お願いいたします。

○湯梨浜町長（宮脇正道） グランドゴルフをワールドマスタースゲームズの種目にさせていただきまして、今、その普及といいますか。そういう活動を一生懸命やっているんですが。このグランドゴルフの国際化というのは、実は地方創生の方から私ども町は入っております、ですからオンリーワンを生かして、交流人口の拡大なりインバウンドの促進を図ろうということで入ったんですが、実際にワールドマスタースゲームズの開催が決まりまして、それで諸外国と行き来したりしますと、そうするといただいたアドバイスが、来てもらうことばかり考えていたって、それは駄目で

しょうねということをお願いしたりして、それは当然のことですので、ということになると考え方が変わってきました、連合長もよくおっしゃっておりますスポーツツーリズム、これでお互いに友情なり健康なりが高まればというようなことを、そう言う思いでやっておりまして、クラウドファンディング型のふるさと納税をやって、その寄附を集めて、700万円弱程だったんですけども、そのお金を使って用具の提供をしたり、多言語のルールブックつくったり、あるいはその映像でつくったりとか、そういうこともやってきているんですが、一つ今ちょっと悩ましいかなと思っているのが、そのスポーツツーリズムをやるのに海外へ働きかけていく、その手だてというものがなかなか難しいと、県の方にもご協力いただいて、今、10カ国程度にグランドゴルフ協会ができて、協会ができてないところも含めれば12～3カ国で楽しんでおられる方ができているんですが、それをもう少し、ある程度飛躍的に広げたいというような思いがあるときに、スポーツ庁の長官あたりは、この場所で言うのが適切かどうかわかりませんが、ツーリズムのことを一生懸命おっしゃっている。やりましょっておっしゃっていますが、文科省を尋ねてみるとそういう機構をつくる、組織をつくるのに支援はあるけれどもという程度の話しか返ってこなくてですね。クリアを通じて例えばやろうかと思っても、一角崩してお願いしたりすればなかなかうまく取り上げていただけないということで、そのもっていき方、増やすためのもって行き方というものについてちょっと悩んでおりまして、各府県さんで海外と交流も当然しておられるでしょうし、もちろん市町村もそうですけれども、そういったところで私どもが尋ねて行ってお願いするのは、健康部局と、それからたぶん高齢者の生涯スポーツなんかも担当しておられるところあたりが対象になってくるんじゃないかなと思うんですけども、スポーツ振興のところに書いてあります。この4つの要素というのは、皆、このグランドゴルフの場合は持っているわけございまして、是非ともまた、おい、こんなところあるからおまえさん行ってみろということがありましたら、ご教授いただければとてもありがたいなと思って大変厚かましいお願いなんです、お話し

せていただきました。よろしくお願いいたします。

○広域連合長（井戸敏三） 特に何の関係もないようなところにどうやって楽しいスポーツですよということを理解してもらって、そしておいでなさい、あるいはデモンストレーションで出かけるよと、こういうことにつないで行かなきゃいけないんですが、これは大変ですね、おっしゃっておられるように。それで我々は皆さんに、まずはお願いしておりますのは姉妹都市とか、姉妹県を通じた働きかけというのが、まず有効なのでないかということが一つと、もう一つは兵庫県ですと海外事務所、結構持っているものですから、海外事務所を通じてPRをするということが考えられますけど、単に情報提供してみてもなかなか理解してもらえないので、向こうの地域や国のマスターズゲームズとか、シニア大会などに出かけて行ってデモンストレーションしてあげるというようなことが有効なのではないかと思っています。

それで各府県の海外事務所は実を言いますと、広域連合の海外事務所も兼ねておりますので、各府県の海外事務所も活用していただいて、こんなことを紹介しようと言っていたきましたら、できることをやらせていただけたと思います。これは広域連合の事務局に申し入れをしていただけたらと思います。

もう一つ、グランドゴルフは鳥取が発祥で、あまり海外でやっておられないという実情があるので、そのグランドゴルフっていうのは何かというところから初めなきゃいけないんですが、例えば兵庫県で開催しようとしておりますローンボウルズ、芝生の上でボーリングみたいなことをやるんですが。カーリングといったほうが良いでしょうかね。ローンボウルズというのは、実を言うと例えばオークランドの第9回ワールドマスターズゲームズでもやっていた競技なので、これはローンボウルズのオープン競技をやるよという、ローンボウルズ協会の方に働きかけをさせていただいて、来日を促したりと、こんな状況なんですね。ですから海外に、そういう意味でグランドゴルフ協会を、それぞれの地域に設立して働きかけをするというのも一つ、最初は小さくても少しずつ動いていく可能性はあるのではないかなという感じはいたします。

○湯梨浜町長（宮脇正道）　今、連合長がおっしゃいましたような形で県の方のご協力もいただいて、県の方で国際交流基金みたいなものを持っておられまして、そのお金を活用して交流、来てもらうだけではいけませんから、こちらも県の、県民の方とか、あるいは町内、町も出して試合のあるときに出かけたりとか、ゲームをやるために出かけたりとか、そういうことも実施いたしておるところでございまして、今日のお話はとてもありがたく聞かせていただきました。

○広域連合長（井戸敏三）　あれ今、すごく兵庫県内で人気がありましてグランドゴルフ、それで専用のグランドゴルフの芝生、芝生のグランドゴルフ場も整備をしたり、三木の防災公園の道路沿いの20ヘクタール位のグランドゴルフ場などはもう予約がなかなか取れないというような実情になっていきますので、もう一つ高齢者のやっていたゲートボールはね。だんだん下火になって、グランドゴルフが完全にとって変わっているという感じになっていきますので、これを海外にどう普及させるかというのが重要なポイントではないかと思います。

○委員（平井伸治）　ありがとうございます。連合長の方から非常に力強いお言葉をいただきまして、今、実はモンゴルで結構盛んになってきてまして、モンゴルは国際大会をやったりし始めています。そこからスペインに飛び火をしたりですね。じわじわと今広がっています。また韓国とか、台湾にもグランドゴルフは広がってきてまして、ぜひ、我々もそうしたところのキャンペーンをバックアップさせていただきたいと思います。また例えばドバイの万博とか、機会がありましたらこういうのも紹介をしていただけると言うことがあっても良いのかなと思います。またオークランド、アジアの方でも行列ができるくらい結構向こうの方で気に入っていただいて、人気が出ましたし、オークランドも井戸連合長率いて皆で出かけて、キャンペーンをさせていただきました。びっくりしましたけども井戸連合長は私より数倍上手かったです。

そんなわけで、ぜひこれからコーチをしていただきまして世界中を渡り歩いていたければと思います。ゲートボールはやっているとケンカになりますけど、グラン

ドゴルフは皆で仲良くなりますので。そういうわけで、是非、また一つPRをお願いしたいと思います。

○事務局 ありがとうございます。予定の時刻もまだ迫ってはおりますが、和田町長さん、小谷町長さんほか、まだご発言をいただけていないご出席の方もいらっしゃいます。

○忠岡町長（和田吉衛） 今日の環境問題もありますが、私は特にワールドマスターズゲームズに期待をしているところでございます。先日、ニューオータニで出陣式みたいなものがあって自分自身も意識が高まりました。今日の連合長のお話を聞いてですね。一層いよいよだのと、やる気だのと、こういう気持ちになりました。本配られているパンフレットを見ても「いよいよ」とか、日付が入ってきました。ラグビーに負けないように頑張らなくてはいけないと、こう思っています。

先日、花園へ寄せてもらいました。駅から球場までの間はボランティアの方のTシャツが青だったと思いますが、またラグビー場の中に入りますと、赤と白の色でいっぱいでした。そういうことを思うと、先日ご紹介いただきましたネクタイとか、Tシャツの件を思い出しまして、今日も売っているのかなと思ったんですが、いつごろから一般に販売していくのかなと、こういう思いであります。

そんなことで、これからいよいよオリンピック・パラリンピックの聖火リレーが始まってきますので、私たちの、このマスターズゲームズは沈没しないように、こういう心配もありますので、崩れないようにやっていきたいなと、こう思っておりますので、自らネクタイを締めないといかんのかなと、こういうふうに思ったりしています。

○広域連合長（井戸敏三） 力強い決意表明ありがとうございました。

○みなべ町長（小谷芳正） 和歌山県の町長全員の意見じゃなしにほとんど、大方私の意見になるかと思いますが、先ほどもお話がございました。農業、農産物の海外進出のお話、今、和歌山県はみなべ町を筆頭に沢山やっています。それと合わせて5年前ですか、平成27年の世界農業遺産認定がされた地域でもござい

まして、27年と、平成30年と比べますと、みなべ町の農業政策は66%も伸びております。今年は倍になったかなと思いますけれども、町民から叱られるのは、固定資産税が上がったと、すぐそういう話になるんですけども、やはり良いものをつくれば全世界で消費してくれるのかなと、それと今一つよく調査できていないんですけども、みなべの青梅が九州の市場へ行って、そこから台湾、シンガポール、東南アジアあたりに行って、遠くはアメリカ西海岸まで転送されているよと、そういう話を聞きますと、そこに触手が動きまして、いろんな形で今後も増やしていければなという話が、これは農業全般に言えることかなと思いますけれども、やはり先ほど仁坂知事さんが言われましたが儲かる農業ですか、農業が儲かりますと結構、遊休地なんかも引く手あまたで、今、和歌山県ではみなべ町がトップぐらいかなと思いますけれども、いろんな形で儲ければ後継者も残ると、後継者が残れば結婚もされて子供も増えるという、こういう形になってくるので、そういう良い循環にしていきたいなという話をお願いしておきたいのと、あとこれを言いますと国の方からいつも叱られるかと思いたくはなけれども、ごみの問題は、やはりみなべ町におきましてプラスチックを分別していただいて、圧縮梱包して、和歌山のある企業へ送って処分してもらおうと、燃料にしてもらえるんですけども、であれば地元でなぜ焼けないのかなとか、国のリサイクル法ができるまでは溶融炉という施設が可能であったかと思いたくはなけれども、その後は溶融炉はまかりならんということになったらしんですけども、乱暴な言い方をしますと、ごみは燃やせば一番処分が早いのかなと、溶融炉で分別できない部分というのは、クーラーの中のフロンガスですか、あれを抜くだけであとはみな鉄の塊になってしまうよという、それを復活できればごみの問題はなくなるのではないかなと思うんですけども、役場の中で言いますと課長にいつも叱られるんですけども、リサイクル法があるので町長、それは言っては駄目ですよと言われておりますけれども、思いとして考えております。

以上です。

○事務局 ありがとうございます。予定しておりました時刻きております。淡路市、高島市、松原市の方からもそれぞれ副市長さんがお越しいただいておりますが、この際何かご発言がございましたらお願いします。

○高島市副市長（上山幸応） 市長の代理で出席させていただいております。発言の機会をいただきましたので、希望というか、お願いでして、近年の異常気象で去年、今年と非常に風の強い台風で大きな被害を受けました。中でも倒木による長期の停電、大規模停電が関西圏の各地でも発生しております。聞くところによりますと来年度の送電線の下を含める環境林整備事業で、その対策をされるということもお聞きしていますので、自分の町はできていても隣接する町ができてなかったら、その効果も薄らぐというか、ゆくゆくはできると思うのですけれど、隣接同士の事業が一体に、同じ年度に進むようにお願いをさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○淡路市副市長（金村守雄） 来年の1月17日で阪神・淡路大震災から丸25年、震源地の淡路市ですが、やはり淡路市から言うよりも兵庫県から、関西から、やはり安心・安全な関西を内外に情報発信していただきたいなと思います。これは、やはり東京オリンピック・パラリンピック、これは私どもも兵庫県さんと一緒にキャンプ地として手を挙げています。そして関西ワールドマスタースゲームズ、そして万博等ですね。そのエネルギーをいただくとともに広域連合の方で、安心・安全な関西圏を情報発信していただきたいなと、このように思いますので、よろしくお願いしたいなと思います。

○松原市副市長（太田 敏） 今日はいろいろと貴重なご意見を拝聴いたしましてありがとうございます。市町村や一つの自治体でやるよりも、やはり広域でやることで、より効率的で効果が出るというのは全く私もそうっております。今日はいろいろとご意見出まして、「おもてなし」の話も先ほどもございましたが、来年がオリンピックということで、オリンピックが終わった後、地域の活性化をどのように考えて

いくのかなと。東京の方ではオリンピック後、次の活性化というようなところで「食をテーマに」というような形で、議論も始まっているということも聞いております。また関西広域連合で考えていただく中で、万博の後どう活性化していくのかというようなところも、検討、研究をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局 どうもありがとうございました。

予定しておりました時刻もまいっておりますので、ただいまいただきましたご発言も含めまして、最後に井戸連合長の方から総括とご挨拶をお願いできればと思います。

○広域連合長（井戸敏三） 上山副市長さんからのお話はしっかり受けとめて対応していかななくてはならないのではないかと考えています。千葉の事例で調べてみますと、幹線はそこがやられても回せるんですね。ほかの幹線を通じて、ところが最後の引き込みが問題なんですね。だからその最後の引き込みのところをどういうふうに、木などで倒れないよう、線が切れないようにしていくかというのが、その環境整備事業の発想ですので、この辺はおっしゃいますように、協力しながら進路を上げていくということが不可欠になりますので、その辺の調整は当然やっていかなきゃいけない課題だと思っています。

それから安全・安心の関西については是非打ち出していきたいと思っております。先ほどもふれましたが、防災アプリの外国人用なども、非常に有効な手段になるのではないかと考えています。

それから太田副市長さんがおっしゃったワールドマスターズゲームズの後とか、万博の後とか、ポスト対策というものが非常に重要で、ワールドマスターズゲームズの方ではレガシーをどう残していくかという議論を、委員会でやっていただいているところです。観光客を一過性にしないで、さらに広域的に回っていただくような、そういう方向が一つあるのだろうと思いますし、もう一つは、やはり私どももこれから力を入れたい産業ツーリズムですね。産業ツーリズムとスポーツツーリズムというのをしっかり取り組んでいくというのが必要なのではないかなと、こんなふうに思っていま

す。ともあれ地域の活性化を、これからも持続させなきゃいけないので、どうぞよろしく、いろんな意味でお願いしたいと思います。

○事務局 ありがとうございました。

○事務局 最後に連合長からお礼のご挨拶を申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） 今回、16回目の市町村長との意見交換会でありますけれども、今までの中で一番活発な意見交換ができたのではないかなと思っております。それだけプラスチックごみの対策ですとか、防災ですとか、あるいは観光ですとか、課題が大きくなってきているということの表れではないか、そのよう思います。それに対する対策として広域対応が必要だというご意見を非常に強くいただきましたので、我々もそうでなくてならないとは思っておりますが、しっかり構成府県市や市町村の皆様方と協力しながら、また官民も一体となって課題解決に当たっていかなくてはならないという気持ちを強くさせていただきました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げますとお礼のご挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局 どうもありがとうございました。

以上をもちまして、意見交換会を終了させていただきます。

本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

閉会 午後 5 時30分